

# 社会福祉施設等（入所）での 陽性者発生時の対応

## 【目次】

- 初動時の情報共有と意思決定をしましょう ……P2
- 必要な個人防護具（PPE）などの資材が揃っているか  
確認しましょう ……P3
- 陽性者が判明したら可能な限り個室で対応をしましょう ……P4
- 連携医療機関、保健所および主管課へ報告して、今後の  
対応を相談しましょう ……P6
- 陽性者の方の発生状況やその方の詳細、接触のあった方を  
整理してリストアップしましょう
- 施設内での陽性者の療養生活を準備しましょう ……P7
- これからの対応について計画しましょう ……P7
- 居室内でのゾーニング（区域分け）を考えましょう ……P8
- 入居者の方の健康状態を日々確認しましょう ……P10

# 初動時の情報共有と意思決定をしましょう

施設内で何が起きているかを全員で共有し、今後の対策を検討しましょう。

## □初日に関係者が集まって検討会議をしましょう

施設長（理事長、社長）、看護リーダー、  
介護リーダー（小規模施設は全員）、  
理学療法士、訪問看護師、事務、  
関連する事業・グループの責任者等  
必要時：ケアマネ、かかりつけ医等

## □会議内容（報告内容等）を定型化し、議事録の作成と共有をしましょう

接触者の特定、感染対策（ゾーニング）、  
検査対象者と検査スケジュール、  
入居者移動、入居者説明、  
施設機能の維持（デイケア・通所リハ など）



少なくとも、その人からはこれ以上の感染者は出さないという強い意志を持ちましょう。

# 必要な個人防護具 (PPE) などの 資材が揃っているか確認しましょう

基本:うつらない!うつさない!



⇒使用のたび廃棄できるよう、十分な量  
(目安として、2週間から1か月ほど)を用意しましょう

## □ 不織布マスク (JIS規格を推奨)

鼻までしっかり覆い、隙間がないように付ける。

マイクロ飛沫 (エアロゾル) が大量に発生するような場面 (気道吸引・  
激しい咳など) では「**N95マスク**」を着用。

## □ ゴーグルまたはフェイスシールド

食事介助時や咳をする方のケア時など、飛沫暴露のリスクがある場合  
は装着が望ましい。

## □ 手袋 長袖ガウン ビニール製エプロン

陽性の方及び陽性の方の周囲の汚染箇所に直接接触する可能性が  
ある場合に装着することが望ましい。

## □ ヘアキャップ (毛髪が患者に接触する場合に着用)

頭部へのウイルス付着することを防ぐ。髪を確実に覆う。

## □ ゴミ箱

陽性の方を対応した後、使用したPPEは速やかに廃棄。

ゴミ箱からの汚染や廃棄時の手への汚染を防ぐために、蓋付の  
足踏みごみ箱を用意することは有効。

## □ 消毒液

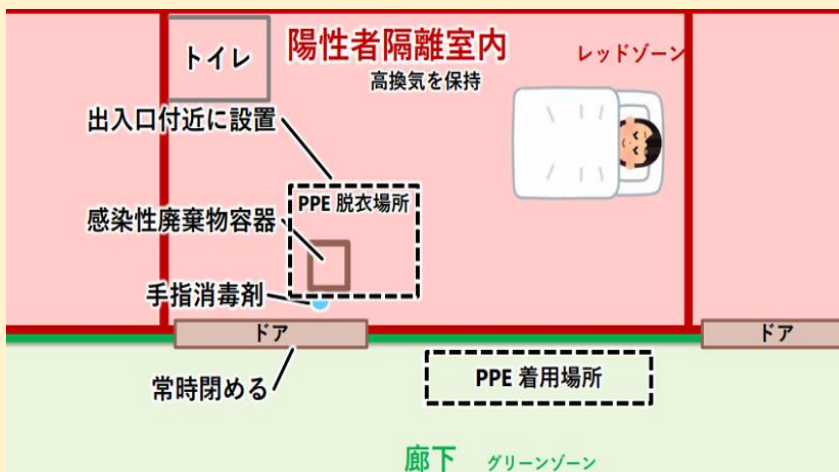
- ・アルコール (濃度70%以上95%以下のエタノールを用いて拭き取る)
- ・次亜塩素酸ナトリウム (濃度0.05%:500mlのペットボトル1本の水に、  
ペットボトルのキャップ1杯分の5mlの塩素系漂白剤を入れる)

\*用途によって消毒液や濃度を使い分ける。

# 陽性者を個室で対応しましょう

- 可能であれば、陽性者を個室へ移動しましょう。
  - 陽性者に対応する方は適切なPPE（マニュアルP.3参照）を着用しましょう。
  - 個室の出口でPPEを脱いでから外へ出ましょう。
  - 物品は患者専用にすることが望ましいです。専用ができない場合には病室から持ち出す際にアルコールで拭きましょう。
  - ゴミ箱は足踏み式、蓋つきゴミ箱を設置しましょう。
- ☆居室のゾーニングについてはP.8をご参照ください。

PPE着脱場所の例  
(上からの視点)



ゴミ箱の例



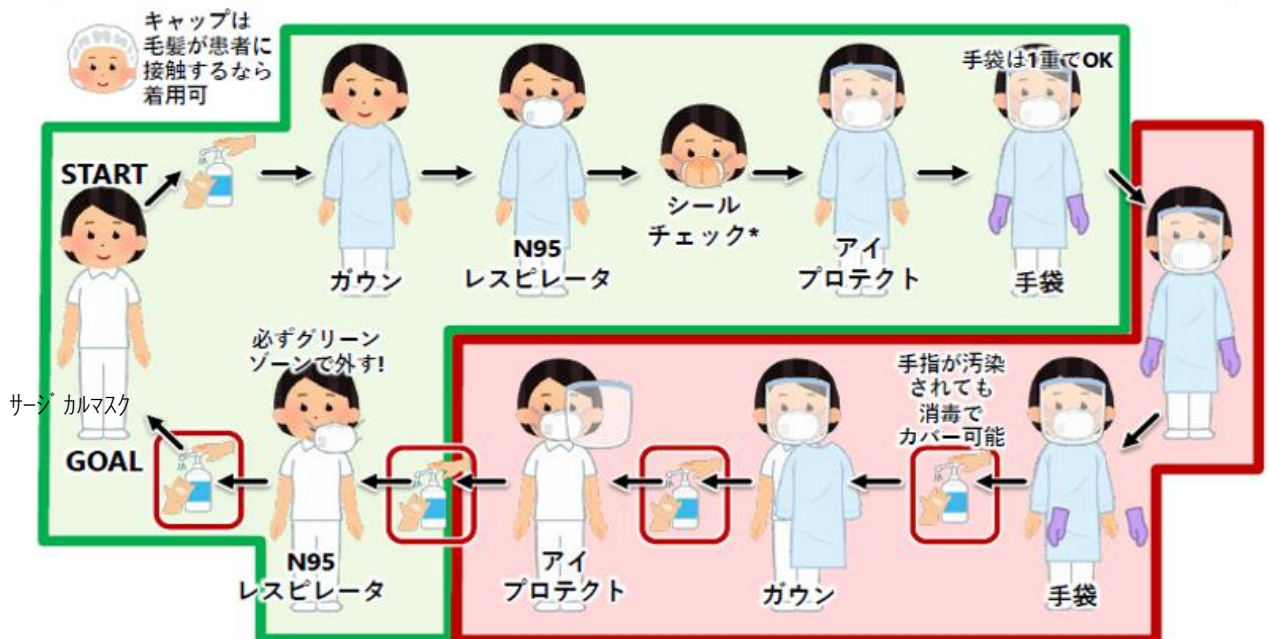
# PPEの正しい着方、脱ぎ方順序

\*特に**脱衣時に汚染のリスクが高い**ので、正しい脱ぎ方ができるように普段から練習しておきましょう



## ポイント

- ・着用場所には、PPEの着用順序を貼ったり、**姿見**を置くのが**おすすめ**です。
- ・脱ぐ場所にも順序を記載して掲示します。



\* シールチェックとはN95レスピレータが適正に着用されているかを、息を勢よく吐いたり吸ったりして、レスピレータの横から空気が漏れないかを確認する手技のこと。

出典：東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野

## 連携医療機関、保健所および主管課へ報告し、 今後の対応を相談しましょう

乳幼児、高齢者、障がい者等が集団で生活または利用する社会福祉施設等で、感染症（疑いを含む）が発生した場合、下記の報告基準（1）～（3）のいずれかに該当する場合は、速やかに大分市保健所に報告をお願いします。

また、主管課についてもそれぞれの報告基準に従って報告をお願いします。

（保育・幼児教育課、長寿福祉課、住宅課、障害福祉課等）



### 社会福祉施設等における感染症等発生に係る 報告について

- (1) 同一の感染症若しくは食中毒による又は、それらによると疑われる死亡者又は重篤患者が1人でも発生した場合
- (2) 同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が5名以上又は全利用者の1割以上発生した場合
- (3) 上記に該当しない場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合

## かかりつけ医等との連携を取りましょう

### ☆入院の判断や調整はかかりつけ医等※が行います☆

※施設医、嘱託医、協力医療機関

施設内で療養・治療ができる準備をしましょう。

また、状態悪化時はすみやかにかかりつけ医等と連絡が取れるよう体制を整えましょう。

- かかりつけ医等に相談をしたり、診察を受けられる体制を確保するため、日頃から密にやりとりをしましょう。  
※夜間、休日等の連絡方法や状態悪化時の対応などを事前に詳細に確認しておきましょう。
- かかりつけ医等に相談の上、近隣の外来対応医療機関に入所者が感染した場合の協力を求めておきましょう。

## これからの対応について計画しましょう

施設全体の感染者の人数によりますが、長くて1か月以上対応が続くかもしれません。  
次のことを考えておきましょう。

- 残った職員でだれが何を担当するか
- どのようなシフトを組むか
- 不足している物資等をどのように補充していくか



# 居室内のゾーニングを考えましょう

## ウイルスが空気・環境に多い区域:レッドゾーン(汚染区域)

\*PPEを着用した状態で対応

➡可能であれば、陽性者は個室で対応をしましょう。

※陽性者が複数人いる場合には、陽性者だけを同室(や近くの部屋)にして対応することも有効です。

## ウイルスが空気には少ないが環境には存在する区域

### :イエローゾーン(準清潔区域 または 準汚染区域)

\*レッドゾーンからグリーンゾーンに戻るまでの中間地点

防護服を脱いで、消毒し、ウイルスがない状態に戻るための場所。

脱衣の為だけの場所と考える。

➡接触者は個室管理が可能であれば個室で管理しましょう。

## ウイルスがない区域:グリーンゾーン(清潔区域)

\*ホット一息。でも、休憩室などは密にならないようにしましょう。

防護服等はこのゾーンで着ていくこと

➡広く確保することで、スタッフの負担が減ります。

(防護服の装着等なく、自由に動くことができるため)

## 共通

➡スタッフが同じ認識で対応するために、床や壁にテープを貼るなどわかりやすくし、皆の目にみえるようにしておきましょう。



# 入居者の方の健康状態を

## 日々確認しましょう

午後から急激に体調悪化を起すこともあります。  
そのため、午前だけでなく午後にも体調を確認をしましょう。

入院の判断や調整はかかりつけ医等（施設医、嘱託医、協力医療機関）  
が行うため、かかりつけ医等の先生と密に連絡が取れるよう体制を  
整えましょう。

※夜間、休日等の連絡方法や状態悪化時の対応などを詳細に事前に確認しておきましょう。

健康状態の  
異常を発見した場合



速やかに、医師等に報告



新型コロナウイルス感染症の患者は、状態が急変する可能性があることに十分留意しましょう

### 【連絡先一覧】

大分市保健所 感染症対策担当班

TEL : 536-2851 FAX : 532-3356

医療機関名：

TEL :

医師名：

医療機関名：

TEL :

医師名：